



【育成を目指す資質・能力】 話すこと【発表】イ

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す力

【単元目標】

新しく来るALTの先生や、高知や南国に興味を持っている外国の人に、高知や南国の魅力を知ってもらうために、総合的な学習の時間などで学んだことや経験したことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて紹介することができるようにする。

【領域で貫く外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】

総合的な学習の時間などで得た情報や知識、体験したことについて、聞き手が理解しやすいように、伝える項目を精選したり適切な順序に並べたりするなどして、話す内容をまとめ、聞き手に分かりやすい展開や構成などを考える。また、事実と考えを分けて整理するなど、話す内容をおおまかな流れにしてコミュニケーションの見通しを立て、自分の持っている知識・技能の中で、「目的・場面・状況」に合わせて、適切な表現、伝え方等を選び、テーマに沿った、内容に一貫性のあるスピーチをする。さらに、自分が話した内容について、他者からの質問に答えるなどの関わりを通して情報を整理しながら考えを再形成し、再構築し、話す。

【英語科としての工夫点】

＊ カリキュラム・マネジメント

香南中学校では、他教科での学習と英語学習を関連させたカリキュラム・マネジメントを行っている。本単元は、総合的な学習の時間に学んだ知識や経験を生かすことができるものとなっており、学習の意味付けや興味付けにつながるとともに、英語の時間の中では、情報を集めたりまとめたりする必要がなく、目的や場面、状況に応じてどのような内容・構成・表現で話すかを考えさせる指導のための時間が十分確保できる。

年次	4月	5月	6月	7月	8-9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科
各教科等	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科

＊ 小中9年間を見通した「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定

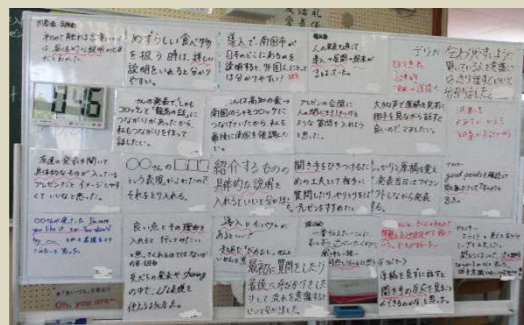
香南中学校では、校区の小学校と年に3~4回協議をしながら、CAN-DO リストの設定・活用・見直しを行っている。このことにより、中学校教員は、小学校での学びを把握できるので、それを踏まえて中学校で子どもに付けるべき力が明確になる。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科	英語科

教材研究会 (5月17日)

教材研究会では、授業者による模擬授業後、参加者全員で、本時の最後に生徒から引き出したい「振り返り」を想定して書く、という演習を行い、以下のことを確認した。

- 1時間の最後に生徒から引き出したい振り返りを、授業前に想定しておくことで、その時間の指導が明確になる。
- 引き出したい振り返りを想定する際には、その時間に付けたい力に照らして想定することが大切である。
- どのような表現に着目したのか具体的な英語表現を用いて書かせるとよい。



付けたい力

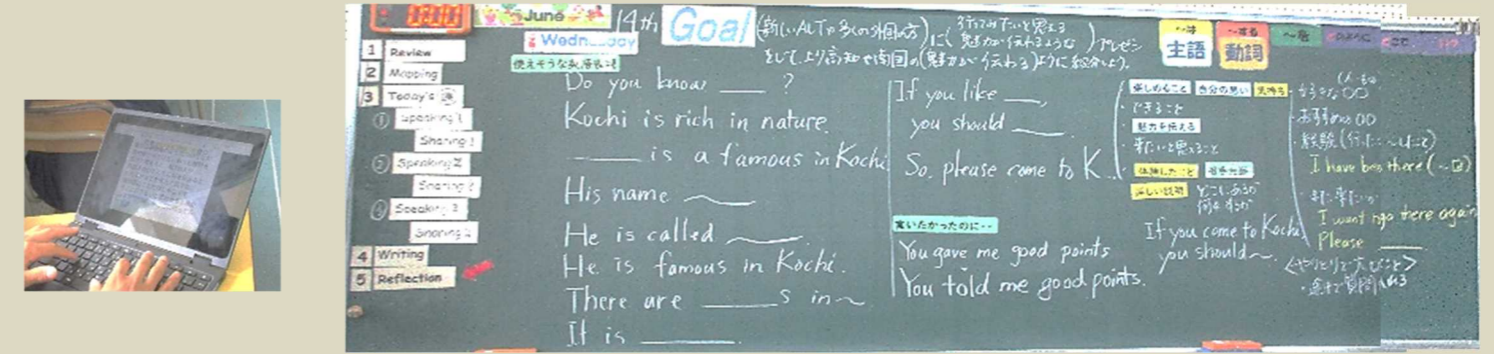
引き出したい振り返り



授業研究会 (6月14日)

【本時の流れ】

- 1-min chat "What is the goal of your presentation?" "Who?" "Why?"と問いかけプレゼンの目的を確認する。
- めあての確認 本時のめあてについて確認する。
- 前時の振り返り 前時に録画した友達のスピーチを全体で視聴し、よかった点を生かしなが、自分のマッピングを見直す。
- Speaking 1 ペアに伝え、聞いた生徒はそれに対して、質問やコメントをする。
- 中間指導 「言いたかったのに言えなかった表現」を確認する。⇒自身のマッピングに加筆する。
- Speaking 2 加筆したマッピングや写真を基に、違うペアに伝える。
- 中間指導 代表者が発表し、それに対して、もっと知りたいことを質問したりコメントを言ったりする。
- Speaking 3 会場の参加者に向けて、マッピングや写真を基に話す。
- Writing 話したことを書く。
- 振り返り ICT 端末に振り返りを記入する。



＊ 言語面からの中間指導

言語面からの中間指導では、例えば、子どもから出た質問を、英語の語順を確認しながら解決し、それを語順カード等を用いて板書に残しながら、質問した子ども以外の子どもの学びにもつなげたい。

＊ ICTを活用した振り返り

ICT 端末を活用して振り返りを行うことで、子ども同士がその場でお互いの振り返りを確認し、自身の学びに生かすことができる。また、授業者も事後研で、子どもの振り返りを基に授業を振り返ることが容易になる。

入之内 昌徳 教科調査官より

＊ 相手意識をもつことができるような単元を構成する

「誰に・何のために伝えるのか」を明確にした単元構成を行うことが大切である。例えば、本単元であれば、新しいALTからのビデオメッセージを単元の最初に見せることで、相手が高知の何に興味をもっていて、どんなことが知りたいかが明確になり、相手のニーズにあわせて話すことができる。

＊ 英語で「やり取り」する力を育成するために「聞く力」を育てる

相手が話したことにに対して、質問したりコメントしたりするためには、相手の話している内容を聞き取る必要がある。例えば、聞き取った後に何をするのかを伝え、子どもたちが何のために聞き取るのか、という目的を明確にしておく子どもたちは自然とメモを取るようになるのではないかと。4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の「話すこと 大問2」では、プレゼンテーションの内容をよく聞いて把握していないと、自分の考えを述べるできない問題となっている。実際の授業でもこの学力調査問題を活用してほしい。

大問2 英語の授業で、ウェブページから来た留学生が環境問題についてのプレゼンテーションをしています。その発表の英語の内容をもとにして、あなた自身の考えとその理由を英語で伝えましょう。1分間の話し時間と、30秒で話し終わってください。メモを取って構いません。それは、プレゼンテーションを聞きましょう。

Do you buy plastic bags at the store? Or do you use eco bags?

Look at this picture. There are many plastic bags in the sea. It is a serious problem today.

Now, look at this. I was really surprised to see this because over 25% of people in Japan buy plastic bags at stores. In New Zealand, stores do not sell plastic bags and we take eco bags.

Some people may say plastic bags are becoming more eco-friendly, but I recommend stores in Japan should stop selling plastic bags. What do you think?

これは、話し内容を考えましょう。(聞き時間30秒)
それでは、30秒で話しください。(発表時間30秒)

令和5年度全国学力・学習状況調査 中学校英語「話すこと」大問2

【参加者アンケートより】

- 目的や場面、状況を明確にして、それを単元導入時や授業の導入時に生徒と共有することが大切だと思った。
- 言語活動を中心に据え、生徒が自身の学びに気付けるようにしたい。また、生徒が相手意識を明確にもてるよう、生徒と対話しながら確認していく授業を行ってみたい。